

市では、御成町地区、大町地区を含む中心市街地の活性化を図るため、「大館市中心市街地活性化基本計画」を策定しています。この基本計画には各種活性化メニューがあり、その中の一つに「若者が魅力を感じる街の形成」があります。この目標達成のため「遊ぶ・語らう・食べるなど若者のニーズに合ったテナントの誘導（商業施設の誘致）」を検討施策としています。



4年制大学へ移行する秋田桂城短期大学

御成町地区では、平成17年4月開校予定の中高一貫教育校や、秋田桂城短期大学の4年制大学への移行で、街に若い方々が増える要素があります。これに加えて、現在計画されている区画整理事業が

事業化されれば、新たな店舗の配置やご提言にありました若者向けの店舗配置など、その可能性も広がり、前述した基本計画を達成できると考えます。

一方、大町地区とその周辺地区は、商業地としての歴史があり、しにせが数多くあり、高齢化率の高い地区です。そのため、高齢者が利用しやすい店舗や施設が必要となり、現在検討している市営住宅の建て替え時には、必然的にこれらの商業環境が整ってくるものと考えます。

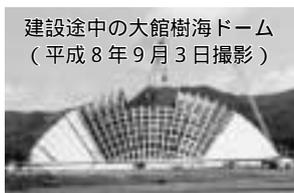
このように、御成町地区、大町地区それぞれに地区の特性があり、その特性を上手に生かすことで、中心市街地内での年齢層に応じた店舗展開がなされていくものと考えています。店舗の種類や品ぞろえなどは、消費者の立場からの率直なご意見として、今後の店舗運営などに生かしていくよう商業者へ伝えます。

## 木材産業に力を入れて欲しい

秋田杉は知名度で青森ヒバに負けていると思うので、木材産業に力を入れたらどうでしょうか。  
(30代・男性)

### 杉資源を活用し新たな販路を拡大します

本市周辺の木材資源は、今後の需要に十分に応えられる状況となっておりますが、需要構造の変化に伴い、杉製材品生産量は年々減少が続いています。更に、部材の強度や寸法精度が重要視されるようになり、製材業のみならず、製品流通においても大きな変化にさらされています。



建設途中の大館樹海ドーム  
(平成8年9月3日撮影)

このような状況を克服するため、市の誘致企業である秋田グループラム株式会社では、秋田杉を始めとする国内材及び輸入材を用いた構造用集成材を製造しています。この集成材は大館樹海ドームや上川沿小学校、現在建設中の樹海公園体育館（仮称）にも用いられ、木材製品の新たな販路の拡大につながっています。

また、協同組合秋田県北木材センターでは、農林水産省の補助事業である「集成材加工施設整備事業」を行いました。この事業は、消費者ニーズに対応した狂いの少ない均一な製品製造が可能である、集成材加工設備を導入し、今後増大が見込まれる地域の杉資源の活用を図るものです。この集成材加工施設は4月1日から操業を開始し、平成18年には6億5,000万円の売り上げを見込んでいます。総事業費約11億4,000万円のうち、国の補助は50%、県と本市を含む米代川流域の10市町村がそれぞれ15%を補助します。今後本市では、基幹産業の一つである林業・木材産業の活性化を図ります。



健康づくりを応援します

「健康おおだて21」

市長リポート

No.259

市では「すべての市民が健康でいきいきと暮らせる活力ある大館」を目指して、市民の健康づくり計画「健康おおだて21」を策定しました。広報大館5月1日号と同時に、ダイジェスト版を皆さんにお配りしましたが、もうご覧いただけましたでしょうか。

「健康おおだて21」は、地域全体の健康づくりのための「情報」を集めたものです。この計画では、病気の予防に力点を置き、日常生活での健康増進に努め、病気の原因となるものを予防・改善していく一次予防を重要視しています。

これまで、市では定期健（検）診を積極的に推進してきました。それは、早期発見・早期治療が、病気から回復するための重要な手段であるためです。これからは、さらに一歩進んで、病気になるにくい身体をつくることに主眼を置きます。そのため、保健センターでは健康相談・栄養相談を行い、運動教室や健康教室などを開催していきます。保険課では、健康登山を行い健康増進に努めます。このように、市ではいろいろなサービスを実施していきますが、それらを市民の皆さんに利用していただくことが大切です。結局、健康への近道は「十分に情報を得て、その情報を積極的に利用する」ということに尽きるのではないのでしょうか。

普段、私たちは、健康の大切さを忘れがちです。自分や家族が病気になったときに、しみじみと「健康ってありがたいな」と感じるはず。高齢者や障害者が安心して暮らしていくため、また、市民の皆さんが「いつも元気、いつまでも健康」であるために、これからも全力を注ぎます。

小畑 元